



自治体での終活支援、 終活登録

やまなか もとみつ
山中 基充 議員



引き続き終活ノートの活用を進め、 終活登録は課題を研究する

問 エンディングノートは、終活ノートとも呼ばれ、生年月日などの基本情報、自分の人生の振り返り、特技や趣味、やりたいこと、行きたい場所、会いたい人等の今の自分のこと、さらに、もしもの時、延命治療を望むかどうか、介護してほしい人や場所、財産管理をお願いしたい人、葬儀の仕方、お墓のこと、連絡先リスト等、本人がまだ元気なうちは話しづらいことを残せるものである。また、横須賀市では、終活関連情報を生前に市に登録し、万一のとき、病院、消防、警察、福祉事務所や本人が指定した方に開示して、本人の意思の実現を支援する事業が行われている。

答 エンディングノートは、昨年度に引き続き、今年度も配布し、



マイエンディングノート

その活用を進めるとともに、必要に応じて個別相談会などを検討する。終活登録については、本市における必要性や実施に当たつての課題等を研究する。

◎**その他の質問**

- 一 児童館に洋式トイレを
- 二 市職員の人事評価の状況
- 三 地域の交流拠点、防災拠点の自治会館



交通事故から市民を守るために

いずもびんたろう
出雲敏太郎 議員



様々な知見を参考にして交通 安全対策を進めていく

問 庁用車の交通事故発生状況は。平成29年度が11件（うち人身事故1件）、30年度が9件である。

答 庁用車の事故が多い。認識は。今後も引き続き交通安全の徹底を図っていく。

問 子ども優先で交通安全対策を。

答 保育園の園外活動における散歩コース等の危険箇所の情報共有を図った。今後も子どもの目線で対策を行っていく。

問 中学生に自転車用ヘルメット購入の助成及び着用義務化を。

答 中学生全員がヘルメットをかぶれるよう、取組を進めていく。



新設された交通啓発看板

問 人工知能や地図情報システム等の最新技術を活用した交通安全対策は。

答 超スマート社会に向かう中の検討課題とする。

問 踏み間違い加速抑制システムの購入に対する助成は。

答 国や県の動向、市の役割を見極め、総合的に対策を進めていく。

問 現状では、市長の重点施策の割には取組が寂しい。交通安全対策の更なる強化を。

答 様々な知見を参考にし、今後も交通安全対策を推進していく。

◎**その他の質問** 空き家対策の今後について